

イノベーションの担い手に

混沌とした世界

このガイドブックに紹介された12の研究科には様々なメニューが用意されています。皆さんはこの中で、自分の関心のあるテーマを選び、そして夢を持って専攻して下さい。社会科学の分野、自然科学の分野、人文科学の分野、そして複合分野が用意されています。自らの関心に基づいて、前向きな姿勢で選択して下さい。

わたくしは、皆さんにはそれぞれの分野において「イノベーションの担い手」になってもらいたいと思っています。

「イノベーション」とは、「革新」とか「刷新」というふうに訳しますが、それだけではありません。新しい考え方から社会的に意義のある価値を創造する新たな変革ということも意味しています。

今日、社会はグローバル化し、また産業技術は高度化し、そして組織は複雑化しています。一見、大きく進展しているように見えますが、実際は、例えばCO₂による環境汚染や温暖化が進み異常気象がわれわれの生活に大きな影を落としています。また人々の間には格差と貧困が拡がり、共存や連帯より争いと対立が深刻になっています。そして価値観の違いからルール無用の行為が横行して、混沌とした世界になっています。

一体、これからこの世界はどのようにしていくのでしょうか。

「新しい切り口」「新しい捉え方」

このような混沌とした世界で、皆さんにはこれらの難しい課題を解決する「イノベーションの担い手」になってもらいたいと思っています。

2006年、ノーベル平和賞を受賞したバングラデシュの経済学者、ムハマト・ユヌス氏は、貧困層を対象としたマイクロ・ファイナンスを開発し、とりわけ女性の経済的自立を促しました。彼は現在も発展途上国などの貧困と闘い続け、世界のNPO活動に大きな影響を与えて



大学院長 経営学博士
坂本 恒夫
SAKAMOTO Tsuneo

います。

また2016年のノーベル医学・生理学賞を受賞した大隅良典氏は、細胞が不要なタンパク質などを分解して再利用するオートファジー(自食作用)を研究し、人の健康と病気との関連性への応用までに発展させました。

大隅氏は、若者へのメッセージの中で、「興味の持てる分野で、素朴な疑問を追究してほしい」、「好奇心を持って、新しい領域を切り拓くことが大切」と強調しています。

「高度学術研究」だけでなく 「高度職業教育」においても

明治大学大学院にもムハマト・ユヌス氏や大隅良典氏のような「イノベーションの担い手」の研究者はたくさんいます。少し紹介させていただきますと、先端数理学研究科の三村昌泰先生は、いろいろな現象を数理の側面から解明し、数学の分野に新しい地平を切り拓きました。また農学研究科の長嶋比呂志先生は、動物のクローニング研究から移植・再生医学への応用の道を切り拓きました。

研究の分野だけではなく、職業教育の分野でも「イノベーションの担い手」が求められています。環境保護や温暖化対策ではCO₂削減のスペシャリスト養成が緊急の課題ですし、また交通安全などのためには、安全対策としてのAI技術の普及とスペシャリストの養成が、求められています。また会計不正や国際的脱税の問題が頻発するビジネス社会においては、しっかりとした企業倫理の教育やガバナンス教育を受けたスペシャリストとしての人材が必要とされています。

皆さんを応援・支援します！

混沌とした世界にあって、明治大学大学院は、新たな視点で研究の地平を切り拓き、既存の考え方に革新をもたらし、困難な課題に真正面から挑戦し、解決策を提案する情報の発信基地とならねばなりません。若い研究者の皆さんは、独自の価値観と深淵な分析で、新たな提案をする研究が求められています。また、職業教育の領域でも環境問題やAI技術の普及、企業倫理などスペシャリストの養成・輩出が社会的に求められています。

明治大学大学院は、こうした高度学術研究、高度職業教育を提供するために用意されています。「イノベーションの担い手」として果敢に挑戦しようとしている院生の皆さんを、国際研究の支援制度や奨学金制度で心から応援・支援しています。頑張ってください。大いに期待しています。